opusdei.org

年間第10週・木曜日85痛悔の動機

- 邪魔物を取り除く。自己否定。共同救済。 - 悔悛への教会の招き。祈りにおけるその影響。「金曜日の悔悟的意味」。 - 犠牲の種々の分野。色々な条件。

2024/04/28

年間第10週・木曜日

85 痛悔の動機

- 一 邪魔物を取り除く。自己否定。共 同救済。
- 一 悔悛への教会の招き。祈りにおけるその影響。「金曜日の悔悟的意味」。
- 一 犠牲の種々の分野。色々な条件。

85. 1 妨げを取り除くこと。自我 を捨てること。共に贖うこと

イエスは、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また、福音のために命を失う者は、それを救うのである」 1。

主は、すでに、物質的な富から離脱することは必要であると弟子たちに言われていました 2 。 イエスは、今ここではもっと深い離脱を求めてお

られます。人は、自己、自我、最も 個人的なことを捨てなければなりま せん。キリストの弟子にとって、自 己を捧げる一つひとつの行いは、キ リストがわたしの内に生きられるよ うに、自分のために生きるのを止め る証しなのです³。「キリストのゆえ にわたしはすべてを失いました」^⁴ と聖パウロがフィリピの信徒に書い ているように、「キリストにおいて 生きる」とは恩恵による生活です。 キリスト者の生活全体は、命と愛そ して友情の証しです。「わたしが来 たのは、彼らが命を受けるため、し かも豊かに受けるためである」⁵。 キリストは、私たちが神の子で、聖 三位一体との親密な命を共にするよ う招いてくださいます。その素晴ら しい約束を阻止するものは、自我、 安楽、幸福、成功に対する私たちの 執着です。ですから、犠牲が必要で す。それは何か否定的なものではな く、むしろイエスが私たちの内に生 きてくださるように自己から離脱す

ることです。ですから、このような 逆説になります。「生きるためには 死なねばならない」⁶。私たちは、 超自然的な生命を生きるために、自 分に死ななければなりません。「肉 に従って生きるなら、あなたがたは 死にます。しかし、霊によって体の 仕業を絶つならば、あなたがたは生 きます」⁷。

誰かが私について来るなら - 私た ちの傍を诵られるイエスの招きに応 えるために、常に向上しながら、一 歩ずつ先に前進する必要がありま す。神から私たちを引き離し、神と の友情を困難にするものを拒むため に、私たちは、毎日少しずつ自分に 死に、自分を否定し、「以前のよう な生き方をして情欲に迷わされ、滅 びに向かっている古い人を脱ぎ捨て る| ⁸必要があります。神から呼ば れている聖性を達成するために、私 たちは悪への傾きと激情を鎮めなけ ればなりません。原罪と個人的な罪

の結果、もはや意志に正しく従わな いからです。キリストに従うため に、自分を制御し、明確な方向に自 らの歩みを導くことができなければ なりません。私たちは、口バを連れ た人のようです。人が口バを導く か、ロバが人を導くか。つまり、私 たちが激情を支配するのか、あるい は激情が私たちを支配するのかどち らかです⁹。 もし犠牲がなければ、 「〈霊魂〉が徐々に減じて小さくな り、ただの一点でしかなくなったよ うだ…。そして、体が大きくなり、 巨大化して、支配を確立する。聖パ ウロがあなたのために書いてくれて いる。『(わたしは)自分の体を打 ち叩いて服従させます。それは、他 の人々に宣教しておきながら、自分 の方が失格者になってしまわないた めです \rfloor \rfloor ¹⁰。

聖パウロは、償いをする別の理由を 指摘しています。「今やわたしは、 あなたがたのために苦しむことを喜

びとし、キリストの体である教会の ために、キリストの苦しみの欠けた ところを身をもって満たしていま す」¹¹。キリストの受難は、それ自 体、救いのために十分ではなかった のかと、聖アルフォンス・リゴーリ は尋ねています。「受難に優る真価 を持つものはありません。それはす べての人の救いにとって十分過ぎる ものです。またさらに、私たちにも たらされたキリストの受難の功徳を 得るために、神の子であるイエスに 私たちがもっとよく似るように、神 が贈りたいと望まれる骨折りと苦難 を忍耐強く受け入れて主に協力する 必要があります | ¹²。

寛大に犠牲を実行する時、私たちは何はともあれキリストの苦しみを共にすることで功徳を被ります¹³。 そのうえ、償いの超自然的効果は私たち自身の家族に及びます。とは言え、特別、最も助けを必要としている人々、友人、仕事仲間、神のもっ

と近くに連れて行きたいと思う人々に、そして、確実に全教会と全世界にもその効果が及ぶのです。

85. 2 償いへの教会の招き。償い と祈り。金曜日は償いの日

したがって、教会は、償いの宗教 的、超自然的価値(今日の世界を修 復するために、キリストとその救い の意味と共に、神の現存と神の人間 に対する主権)の卓越性を肯定する 一方、すべての人が自発的に懺悔(ざ んげ)の外的行為を行い¹⁴ながら、霊 魂の内的会話をするように招きま す。償いの精神で神に捧げられる と、人の身体的・精神的苦しみは、 無益で有害なものではなくなり、兄 弟姉妹の救いのために贖いの価値を 得ることになります。したがって、 その人は、かけがえのない奉仕を実 践していることになります。救いの 十字架から絶え間なく生み出される キリストの御体において、それは、

世の救いのためのかけがえのない仲介者であり世の救いのために欠くことができない良い業の源であるキリストの犠牲の精神が染み込んだ、まさにその犠牲なのです¹⁵。

教会は頻繁に犠牲の必要性を思い出 させてくれます。誰かわたしの後に 従う者があれば、自分を否定し、あ る特別の犠牲を実行する必要と効果 を考える日として、教会は特に一週 間のうち一日、金曜日を定めていま す。肉をひかえる、幾分難しいと思 われることを行う(仕事をもっと完 全に終える、他の人のために生活を もっと楽しくする、等)、または、 ある信心の業をする、霊的読書をす る、ロザリオを唱える、聖体訪問を する、十字架の道行をする日として 定めています。その日には、物的な 慈善活動を一つでもすることができ るかも知れません。病人を訪問す る、貧しい人と少しの時間を過ご す、施しをする。けれども、私たち

のために苦しみ、死なれ、犠牲の真価を教えられた主を思い出させる毎週の償いの行為だけで満足すべきではありません。日々、神は、霊魂に活力を与え、使徒職を実りあるものに、小さな所で自分を否定するよう私たちに望んでおられます。

85. 3 償いのいくつかの実行

はじめに、私たちは受身的犠牲と呼 ばれるものに気づかなければなりま せん。これは、愛によって捧げられ る時でも、予期せずに起こることや 私たちの意志によらないものであり 得ます。寒さ、暑さ、痛み、予想よ り長く待たなければならない忍耐、 受けるかも知れない不愛想な返答に 当惑させられた時、このような受身 的犠牲と共に、他の人々ともっと喜 んで付き合うため、他にも多くの犠 性があります。たとえば、時間を守 る、関心をもって聞く、気まずい沈

黙の時に話す、愛想良くし、自分の 機嫌を状況に反映させない、他人に 礼儀正しく丁寧に接し、感謝を述 べ、誰かをうるさがらせた時には謝 るなどです。熱心に働くこと、秩序 正しく一度始めた仕事を終えるこ と、他の人々が什事をするのを助け ることも、犠牲をする機会を提供し てくれるはずです。犠牲は、また知 性に関しても行われます。荒々しい 厳しい批判を避けること、詮索しな いことや急いで判断しないこと、ま た、意志の犠牲も可能です。自己愛 には断固として戦う、自分自身のこ とや私たちが行ったことや行おうと 計画していることをむやみに話さな い、自分の好き嫌いについて過度に 話さないことです。

積極的な五感の犠牲は、自己否定のもう一つの分野です。たとえば、見ることに気をつける、節制を実行する、食事毎に犠牲を捧げる。内的犠牲をなおざりにするべきではありま

せん。聖性の追求を妨げる無益な考えを捨て、ミサの間の祈りや仕事中の注意散漫を特に避けることです。

世間の只中での犠牲と償いは、一連の特色を持っているべきです。何よりも、喜びに溢れていなければなりません。「人々の救いのために精魂(せいこん)を捧げ尽くして病に伏す人が言った。時々、身体が反抗し不平を言うが、〈そのような嘆き〉を努めて微笑みに変えるようにしています。実に効果的であることが分

かっていますから」 16。苦しみと病気の中にあっても、もし私たちが犠牲をしていれば、多くの微笑みと楽しい話題を提供することができることに気がつきます。

犠牲は継続的であるべきです。このようにして、どこにいても、神の現存を容易にするでしょう。私たちが熱心に働き、行っていることを仕上げるように助けます。使徒的霊魂を持っていれば、もっと喜んで他の人と関わり、もっと丁寧に付き合うでしょう。

犠牲は、目立たず、自然でなければなりません。それは、変わっていて奇妙なものというより、むしろ、他の人々の生活への効果に見られるべきです。さもなければ、キリスト信者の一人として相応しくないということになります。

犠牲は、謙遜で愛に満ちているべき です。私たちは十字架上のキリスト を見て犠牲を捧げるよう促されます。私たちは全存在を込めてキリストと一つになることを望むからであり、キリストに向かうために役に立たないものは何も欲しくないからです。

カルワリオの丘の上と同じように、 犠牲においてマリアを見出します。 この祈りの時に立てた具体的な良い 決心を、マリアの手の内に置きま しょう。犠牲の必要性を深く理解で きるよう、聖母マリアにお願いしま しょう。

_ マルコ8:34-35

² ルカ14:33 参照

³ ガラテア2:20

⁴ フィリピ3:8

⁵ ヨハネ10:10

- ⁶ 聖ホセマリア・エスクリバー 『道』、187 参照
- ⁷ □-マ8:13
- 8 エフェソ4:22
- ⁹ E.Boylan, This Treamendous Lover
- 10 聖ホセマリア・エスクリバー, 『拓』. 841
- 11 コロサイ1:24
- 12 聖アルフォンス・リゴーリ, Meditations on Christ's Passion, 1 0 参照
- ¹³ パウロ 6世,Apostolic Constitution, Paenitemini, II,1 7 February 1 9 6 6
- __ パウロ 6世, Apostolic Constitution, Paenitemini, II, 17 February 1966

¹⁵ 聖ヨハネ・パウロII世, Apostolic Letter, Salvifici doloris, 27, 11 February 1984

¹⁶ 聖ホセマリア・エスクリバー, <u>『</u>拓』』, 2 5 3

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-X-moku/ (2025/12/13)